

博物館見学レポート

富田 皓

宮崎県総合博物館について

まず、宮崎県総合博物館の収蔵・展示施設の特徴で常設展示は、歴史と自然に分かれていて特別展示は『ドングリとまつぼっくり』をやっていました。ドングリとまつぼっくりの展示の特徴としては種類をたくさん知ってもらいたい意図があって様々な種類のドングリとまつぼっくりがありました。

またただ展示するだけではなく体験型のハンズ・オンを配置したり宮崎県内で製造している榎樽を要所に置いたり、絵画としてドングリアートがあったりと飽きない工夫がありました。常設展示の自然史展示室では、実際の木を使った展示や音で動物の声や木が水を吸う音をだして臨場感のある展示にしていました。また床の色分けでも動物の生息地を分けていて分かりやすかったです。

収蔵施設の特徴は、1か月に1回拭き掃除、カビ、虫のチェックをしていて陽圧に保たれていました。温度、湿度の変動で作動する警報装置がついていました。展示できるものはわずかなので、剥製が大量にあって野生動物でも死んだ動物は冷凍保存などして剥製にしています。歴史収蔵室では壁が木できており、それにより湿度を保っていました。収蔵庫入口の虫、ホコリ対策としてはホコリは粘着シートで、虫は粘着する箱のようなものを要所に配置していました。

ボランティアの役割は毎週土曜日に展示物の1つである古民家の管理や来たお客さんへの説明や体験などがありました。



写真 1：宮崎県総合博物館の展示室にて

西都原考古博物館について

西都原考古博物館の収蔵・展示施設の特徴で、展示施設では入口すぐにある触察ピクトがメインだと思いました。宮崎県総合博物館でも点字はあったのですが西都原考古博物館ではより目の見えにくい人のことを考えた展示だと思いました。音声案内もあってしかも両手が空くので安全ですしケースがない展示ならすべて触っても良くてまた、手すりがある場所も多かったので本当に障害のある人、体の不自由な人に配慮した博物館だと思いました。

ただ、展示している資料が受ける影響の問題なので難しいことなのですが宮崎県総合博物館と違い展示スペースの照明が少ないため足元が見えづらくなっていました。実際にお話にもでていましたがお年寄りなどが見えづらくてすべて周れないという問題がありました。

国宝などの重要なものには地震対策用のケースが使われていたりお客さんに対応してその都度変えることのできる展示があったりしました。秋などの環境の良い時に特別展を開催していてまた別の場所で体験型展示の土器作りなどもしていました。

収蔵施設の特徴はすべての資料保存している棚に地震防止用のストッパーをつけていて保存する資料によってまた季節によって収蔵庫の温度、湿度を変えていました。また修復が大変なものが多いので修復を担当する人が別に何人かいました。収蔵庫入口の虫、ホコリ対策としては網戸や2重扉などでしていました。またボランティアにかかる費用を展示施設の入口で募金していました。

これらをふまえて両者の館としての性格の違いは宮崎県総合博物館の方はいろいろな特別展示や体験型展示を取り入れていて展示の見せ方も楽しめるような展示で分かりやすくとにかくユーモアのある見せ方を考えた展示だと思いました。西都原考古博物館は見せ方も工夫していたと思いますが展示物、資料、人のことを考えた展示だと思いました。施設年代としては西都原考古博物館の方が新しいのでそういう面から考えると触察パネルから照明の配置や使い方また展示施設の作り方や経路、館自体の綺麗さもやはり新しいので納得する部分が多かったです。どちらも良い部分が違っていてどちらも生涯学習を学ぶ場として優れている点が多かったと思いました。また資料の取り扱いの面でも両館とも素晴らしい対応だと思いとでも勉強になりました。



写真2：宮崎県立西都原考古博物館にて、須恵器を持たせてもらう